

〔三代實錄三十一〕元慶元年四月二十五日丙申、太上天皇和勅答曰略、帝上表曰略、太上天皇至尊、天皇崇重略、○下

〔令義解七〕御、謂斥至尊、謂一人也、三右如此之類並闕字、

〔令集解二十八〕釋云、名例律云、稱乘輿車駕及御者、太皇太后、皇太后、皇后並同、

〔延喜式一四時祭〕御贖略、○中東文部捧橫刀入就版位、勅曰、參來、即稱唯就階下、轉授中臣女取奉御、訖即

出、

〔延喜式三十九〕正月三節略、○中供奉膳部卅人、卅人御、十

〔安齋隨筆十三〕稱御辭、御の字は、天子の事に云ふ詞なり、されども毎事毎物、悉く御と云ふに

あらず、國史令式等に、御を云ふ事稀にあり、中古以來、天子は勿論、貴人には毎事毎物、悉く御と云ふ、御の詞喧く聞ゆ、今に至ては賤しき我々とても、相互に御字を付て云ふ事になれり、其本

は御字、御製、崩御などの類、天子の事に稱する詞なり、

〔律疏名例〕八虐

六曰、大不敬、謂毀大社、及盜大祀神御之物、乘輿服御物、乘輿服御物者、謂主上服御之物、

○按ズルニ、乘輿服御物者、謂主上服御之物トハ、唐律疏議ノ文ヲ用キシニテ、主上トハ、支那ノ用語ヲ用キシナリ、

〔續日本後紀四〕承和二年十二月庚寅、主上始於清涼殿、限三夜裏禮拜佛名經、

〔續日本後紀二〕嘉祥三年三月己丑、令大法師道詮等請戒、主上口受、永不殺生、

〔類聚雜例〕長元九年四月十七日乙丑、主上○後自去三月之比、不例御、

〔平治物語〕主上六波羅行幸事、

主上○二ハ、北陣ニ御車ヲタテ、女房ノ飾ヲ召テ、御鬘ヲ奉ル、